

イネ科通信 3

(南港観察会から)

2012. 7. 20

1. 本日(7/20)観察したスズメノヒエ属

シマスズメノヒエとアメリカスズメノヒエ

スズメノヒエ属は雌蕊先熟か？

シマスズメノヒエを観察して

雌蕊のみ→雌蕊と雄蕊とが混在→雄蕊が長期間残る

というような変化を知りました。ということからスズメノヒエ属はすべて雌蕊先熟であると推察可能ですが、これも観察による裏付けが必要です。今日(7/20)、アメリカスズメノヒエも雌蕊先熟であることを確認しました。

○シマスズメノヒエの穎果(果実)は昆虫や動物によって運ばれる？

シマスズメノヒエ

秋から冬にかけてシマスズメノヒエの穎の先の芒が融けて粘液が出てきて動物や昆虫などによってシマスズメノヒエの穎果が付着して運ばれるとのこと。粘液が出ていることは確かめましたが、昆虫がとまっているところや、動物の体に付着しているところは確認していません。犬が草むらを走りまわると体中がねばねばしシマスズメノヒエの穎果が付着していることがあるそうです。



2. 本日観察したエノコログサ属

エノコログサ

花序の中軸には白色の長毛を密生、葉身は両面とも無毛、第一小花の護穎は第二小花の背をすっぽりと覆い、刺毛はふつう淡緑色(まれに紫色のものがあってムラサキエノコロとよばれる)。

ザラツキエノコログサ

一見すると、アキノエノコログサのように見えるが、第二穎は小穂と同長であるが、エノコログサと違って先端に僅かに隙間がある。葉身の表はざらつき、途中で断続する円柱状の花序などの特徴でみわけることができる。

オオエノコログサ

オオエノコログサはアワとエノコログサの交配によってできた間種であることが証明されている。円錐花序は多数の枝を分け、それぞれの枝上に小穂が密集し分花序をつくる。大型で花序はアワの小型にみえる。

*上の文だけではわかりにくいときには実物をみてご説明いたします。

*エノコログサの花式図を添付しました。



アキノエノコログサ



エノコログサ



オオエノコログサ